

「研究テーマ」

言語活動の充実に向けての取り組み

～新聞を身近な読み物に、新聞を生かした学習づくり～

姫路市立林田小学校 校長 北川 勝彦

教頭 眞田 政治

1. はじめに

本校は、児童数151人、学級数8（特別支援学級2を含む）の小規模校である。校区は、姫路市の北西部に位置し、林田川沿いの農村地帯にある。遺跡や古墳が点在し、江戸時代には建部氏の林田藩1万石の城下町として繁栄し、陣屋跡や藩校「敬業館」、大庄屋「三木家住宅」等多くの史跡が残っているのも特徴である。



言語活動の充実をめざして、NIE実践指定校2年目の取り組みを紹介する。

2. 実践・取り組み内容

① 講師派遣による新聞記事づくり

産経新聞社の栗川喜典・姫路支局長を講師に招聘し、6年生を対象に、実際に新聞記事を作成する活動に取り組んだ。はじめに、ビデオ視聴を通して、新聞ができるまでの過程を理解した上

で、読み手にわかりやすく伝えるための記事づくりのポイントとして、5W1H（いつ、どこで、誰が、何を、なぜ、どのように）を入れることを、実際の新聞記事を例に確かめた。また、これまでの取り組み、具体的な取材、参加者の声というように、記事を逆三角形構成にするとよいことも学んだ。

そして、実際に自分たちが体験した避難訓練を題材に、新聞記事づくりをした。この「書く活動」を通して、読み手にわかりやすく伝えるための5W1Hや逆三角形の構成というポイントを理解するよい機会になった。

【学習の実際】

1. ねらい

- ・実際に体験したことを読み手にわかりやすい新聞記事にするための知識や技能を身につける。
- ・新聞記事づくりを通して、自ら進んで表現する意欲を高める。

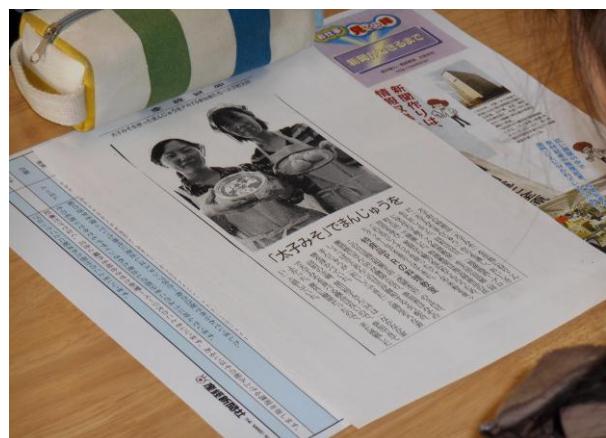




2. 展開

時	学習活動	指導上の留意点
1	<p>1. 新聞ができるまでの過程を知り、新聞の構成や特徴を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・D V D「新聞ができるまで」を視聴する ・読者を引きつけるための新聞紙面の特徴や構成を知る <p>2. 新聞記事を書くためのポイントをつかむ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつ ・どこで ・だれが ・何を ・なぜ ・どのように 	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞ができるまでの流れ「取材→編集→整理→校閲→降版→工場」を理解させる ・見出しや本文の書き方、文字の大きさや飾りについて説明する ・実際の新聞記事を使って、5 W 1 H の記述の仕方を理解させる

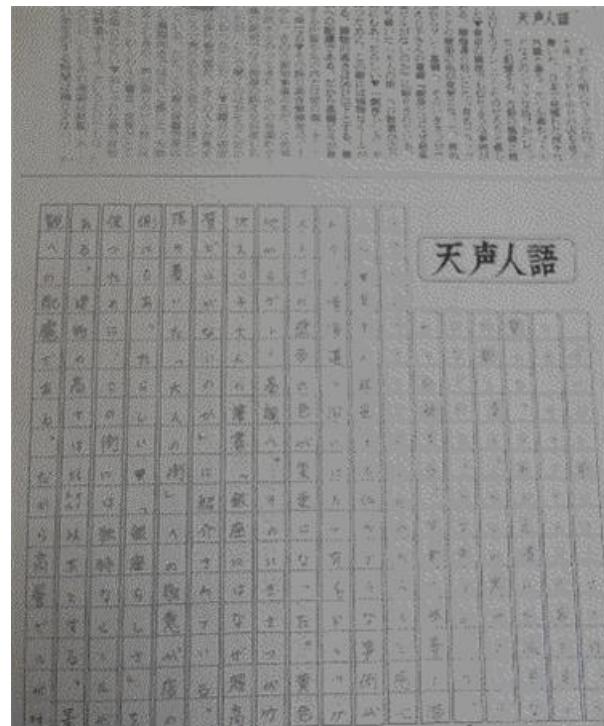
2	<p>3. 伝えたいことが分かるように 5 W 1 H に気をつけて、新聞記事を書く</p> <p>4. 書き上げた新聞記事を読み合う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に体験した避難訓練について 5 W 1 H のポイントを確認しながら新聞記事を書かせる ・5 W 1 H のポイントを落としているか確認させ、よりわかりやすい記事になるように必要に応じて修正させる





② 新聞感想文コンクールへの応募

学校として全校で実施、全児童が新聞記事を読み、感想を文章にまとめる活動に取り組んだ。この新聞感想文コンクールへの応募は、3年前から継続しており、教師の支援だけでなく保護者の協力もあり、児童一人一人が記事をよく読んで、感想として文章にまとめる活動に意欲的に続けた。

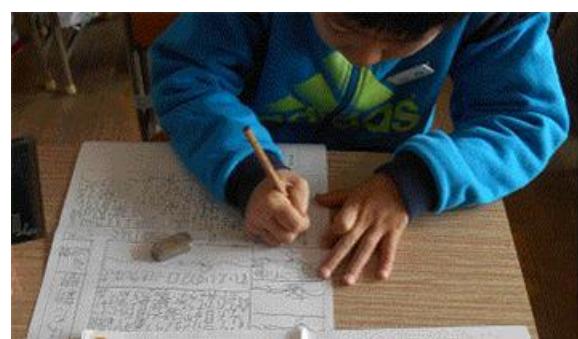
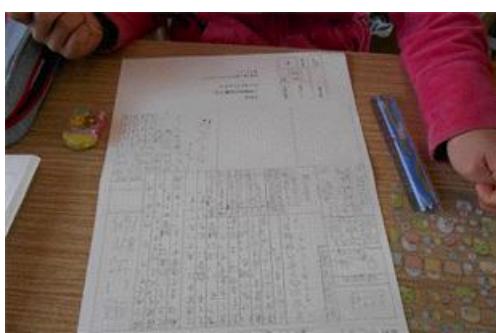


③ コラムの視写

高学年の学習として、朝日新聞の朝刊コラム「天声人語」の視写に取り組んだ。この活動の継続により、書くことに対する抵抗感をなくすとともに文章構成力を高められた。

さらに、書く機会を多く持つために、作文コンクールへの応募にも積極的に取り組んだ。

そして、読売新聞社主催の「地球にやさしい作文・体験活動コンクール」では、3年連続で学校賞を受賞できたことが、子どもたちの大きな喜びになった。



④ 新聞コーナーの設置

新聞コーナーの設置により次のような教育効果が見られた。

新聞を身近なものにし、日本だけでなく世界で起こっている出来事を知るための情報手段としての新聞への興味や関心が高まり、新聞を閲覧する児童が増えた。



6社の新聞を読み比べることで、同じ出来事でも表現の仕方によって、読者への伝わり方に違いがあることがわかり、表現の仕方に気をつけることの大切さを児童にわからせるのに効果的であった。

新聞購読をしていない家庭もあり、6社の新聞を、前期2カ月、後期2カ月の計4カ月間、学校に届けていただき、閲覧できたのも大変ありがたかった。

3. 成果と課題

言語活動の充実に向けての取り組みの一つとして、新聞を身近な読み物に、新聞を生かした学習づくりをしてきた。NIE実践校指定2年目を終え、言語活動の中でも、特に書く活動において、子どもたちの成長を感じられた1年だった。

教育現場で、言語活動の充実が課題と言われている中で、本校の取り組みには、児童の文章表現力を高める視点からも成果があったといえる。

今後、新聞の報道の仕方に興味や関心を持ち、自分なりの読み方で思考し、判断できる力を身につけてほしいと願う。

「継続は力なり」。NIEの実践指定は終わるが、自分の思いをわかりやすく相手に伝えられる子の育成のため、今後も日々の学習に新聞の活用を取り入れていきたい。

